

第7回 斐伊川流域治水協議会 議事概要

日 時：令和4年3月23日（水） 10：00～12：00

場 所：Web 会議

1. 開会

2. あいさつ

【国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所長】

3. 規約（案）について

【事務局】資料1の説明

<質疑応答>

・なし

4. 斐伊川水系流域治水プロジェクトの充実について

【事務局】資料2の説明

<質疑応答>

・なし

5. 水害リスクマップについて

【事務局】資料3の説明

<質疑応答>

【米子市】

・米子市では、大雨（低気圧）に伴う高潮によって排水不良がもたらす内水被害を懸念している。今後、高潮に関するリスク想定も考えてもらいたい。

【事務局】

・現状を踏まえて、今後関係機関と調整を図りながら検討していきたい。

6. 流域治水に関する取組み状況について

【事務局】資料4の説明

<質疑応答>

- ・なし

7. その他

<取り組み状況報告・意見交換>

【境港市】

- ・昨年7月12日に時間80.5mmの観測史上最大の豪雨に見舞われ、12時間でも204.5mmとなるなど記録的な大雨となりました。これを受けて、令和4年度から雨水管理総合計画に着手し、令和8年度に計画が完成する予定となっており、令和9年度から工事に着手する予定である。それまでに浸水被害の大きかった矢尻川の雨水幹線の整備を予定している。
- ・外江地区については、本市が行う内水対策整備と国の堤防整備が一体的に進捗するよう引き続き、国の協力をお願いしたい。
- ・昨年度の豪雨では多くのプラスチック等のごみが、境水道に流れてきたため、例年の倍の清掃活動を行った。漁師町であるため、海洋ごみ問題に懸命に取り組んでおり、流域の市町村におかれましても、ごみを流さないような取り組みをお願いしたい。

【松江市】

- ・流域治水プロジェクトの状況について本年度の5つの取り組みを紹介する。1つ目は、宍道地区・玉湯地区における浸水被害軽減対策のための雨水管渠の整備を実施している。2つ目は、市内9か所の普通河川の堆積土の浚渫を実施している。3つ目は、土砂災害・浸水などの災害リスクの回避・低減のための防災指針を立地適正化計画に織り込む。4つ目は、防災意識の向上のための防災学習、出前講座、マイタイムラインの普及に向けた情報発信を実施している。5つ目は、グリーンインフラに関して、宍道湖・大橋川かわまちづくり計画に基づき親水護岸や公園整備、ミズベリング協議会を中心とした利活用等に取り組んでいる。護岸整備が次年度から本格化するため、魅力的な水辺空間の創造を目指していきたいと考えている。

【米子市】

- ・令和4年度末をめどに立地適正化計画を策定予定である。グリーンインフラとして、中海錦海かわまちづくり計画について国の協力のもと推進している。
- ・流域治水に賛同しているが、下流域の立場として、上流域の対策に関心を持ってきている。流域の貯留機能を高める対策はありがたいが、河道対策では下流域への負荷増

が想定されるため、下流域の整備も合わせて実施してもらいたい。

【出雲河川事務所】

- ・降雨の激甚化も懸念される状況であるため、上下流バランスを考慮しながら、トータルとして治水安全度の向上を図っていくので、ご協力をお願いしたい。

【雲南市】

- ・市管理河川の浚渫を計画的に実施しているほか、被害軽減対策としてハザードマップの作成、出前講座、防災訓練等を実施している。情報伝達の多重化として、防災メール、ケーブル TV で気象情報等の配信、昨年 10 月にデジタル防災無線の運用を開始しており、市内 131 か所に屋外スピーカーの設置等、広範囲に防災情報の伝達を開始している。
- ・水害リスクマップについて、立地適正化計画を策定中であり、島根県のハザードマップの浸水想定区域を参考としているが、今後は水害リスクマップも活用していきたい。現在は斐伊川本川のみからの氾濫を想定しているが、県管理・中小河川も含めた詳細なものが示されると実用的に活用できると考えている。また、浸水深度についても 3 段階から床上浸水の目安となる 1m～3m 未満の項目があると参考になるため、今後も検討をお願いしたい。

【島根県土木部】

- ・昨年 7 月に県東部を中心に浸水被害が多く発生し、河川整備も遅れている状況である。このため、県東部の主に斐伊川水系の河川改修を進めている。主な事業として、松江市の中川河川改修事業を実施しており、S47.7 洪水と同規模の洪水に対して浸水被害の解消を目標に整備を進めている。参考資料 3 の 2 ページに掲載しているが、中川の河道拡幅と、北田川から中川へ抜く放水路整備を実施している。令和 3 年度は下流の護岸整備と上流の設計及び用地補償を実施している。出前講座、防災学習については、斐伊川流域内で 7 回実施しており、今後も意識啓発を図っていく。

【島根森林管理署】

- ・氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策として、今年度は複層林化を目指した皆伐と皆伐跡地への植栽、保育間伐の組み合わせによって樹木をバランスよく配置して、下層植生を豊かにする取り組みを進めて、土砂流出抑制効果を高めて森林の浸透能の向上をさせるための森林整備を行っている。
- ・今後流域治水プロジェクトについて新たな動き等があった場合は、早めの情報共有をお願いしたい。

【奥出雲町】

- ・多面的機能支払交付金を活用し、農業者・住民協働のもと水路、ため池等の維持保全・長寿命化の取り組みを進めている。令和3年度から三沢地区で、農地水環境保全管理協定において一部の水田で田んぼダム of 取り組みも進めており、追加の堰板の設置等による貯留量の増加、最大流出量の抑制等により河川流入量のピークカットを図っている。

【飯南町】

- ・昨年7月には町内全域で大規模な浸水被害が発生している。町内河川の大規模なハード整備はないが、県管理の赤名川の改修が行われている。昨年の洪水で家屋浸水も発生しており、早急な整備進捗を願っている。町内の河川でも堆積土の除去、樹木伐採を計画的に実施しており、昨年度は8河川で実施している。
- ・被害軽減対策として、要配慮者の避難確保計画の作成を進めており、福祉施設は作成済であるが、学校等で作成支援を進めていく。防災学習として、防災士45名養成しており、防災士を中心に防災意識の向上に努めている。
- ・水田貯留として水田650haがあり、治水対策を意識した取り組みを進めていく。

【森林整備センター 松江水源林整備事務所】

- ・昭和36年より水源林造成事業を実施している。島根県下で3万3千ha、そのうち斐伊川水系では1万3,700haの植栽を実施している。令和3年度は、428haの除間伐等の森林整備を行っている。その他、林内の照度を高めて下層植生を繁茂させるための照度管理や幼齢林の保育事業を約1,100ha、新規の植栽を約130ha実施している。令和3年度からの新規事業として、育成複層林の更新伐を奥出雲町内で約21ha実施している。

【安来市】

- ・市管理河川の堆積土砂撤去、樹木の伐採を緊急浚渫推進事業債を活用して計画的に実施している。雨水管渠整備については、浦ケ部地区では令和6年度の完成を目指して整備している。雨水排水施設整備については、昨年7月豪雨で浸水被害があった吉田川に隣接する東飯島地区で、令和4年度より排水機能の調査・対策を検討していく。
- ・ソフト対策については、令和元年度に島根県より想定最大規模降雨の洪水浸水想定区域の公表と、土砂災害特別警戒区域の指定が行われたことを受け、今年度は安来市民防災マップの更新を行っており、全戸配布の準備を進めている。
- ・グリーンインフラ関連では、水田貯留機能向上に取り組んでいる宇賀荘第三地区圃場整備事業における現場からの報告と要望をお願いしたい。圃場区域内の万歳川より上流での、水田貯留機能の向上の説明に際して、作物等への影響を懸念して、耕作者から反発があり、取組の利点や必要性の他、影響が出ないことを説明し、土地所有者

の協力が得やすくなるよう気運醸成をお願いしたい。また、上中下流域のすべてで整備が取り組めるよう関係機関（河川管理部局や農林部局等）で連携が取れた取り組みとなるようお願いしたい。

【境港市】

- ・グリーンインフラのロードマップのなかで、短期整備に浅場造成・覆砂と記載があるが、整備箇所を教えてください。

【事務局】

- ・場所については、着手前の事前調査後、有識者に意見を伺ったうえで決めている。中海でも浅場を計画しているが、現地の状況で条件的な可否がある。来年度、中海は米子湾での覆砂を予定している。浅場造成については、宍道湖で1箇所継続して進めていく予定である。

8. 閉会

以上